

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 小谷 賢

研究課題		現代日本政府の外交戦略と情報、危機管理
報告の概要	研究目的及び研究概要	本年度の研究は、最近の日本をめぐる国際環境の変化と、それに対応するためのインテリジェンス能力強化の必要性について考察を行うものである。冷戦期日本のインテリジェンスについて、その歴史的な経緯を明らかにすることに重点を置いた。特に戦後の公安警察や内閣情報調査室、陸幕二部の設置などに始まる日本の情報機構の経緯、さらには秘密保持の制度などについて調べ、冷戦後については政府の発表している資料や、関係者からのヒアリングを通じて調査を行った。
	研究成果	既にTakashi Inoguchi (ed.), <i>The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy</i> , の第23章として、“Diplomats, Military and Intelligence Officers; From stovepipes to integration in Japan’s security policy”と題した論文を執筆し、編集部に提出した。Abstractは以下の通りである。 After the war the negative tendency was inherited by the new Japanese government. They established the Defense Council in the government for integrating national security policy in the government, but the council did not work well in an inter-Ministries/Agencies rivalry. The end of the Cold War and a change of power balance in East Asia gave a momentum to Japanese government to integrate diplomats, military and intelligence officers in national security policy planning process and the reform finally produced a result of establishing the Japan’s National Security Council (J-NSC) and legislation of the Act on the Protection of Specially Designated Secrets (APSDS) in 2013.
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	Takashi Inoguchi (ed.), <i>The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy</i> , Ch.23., “Diplomats, Military and Intelligence Officers; From stovepipes to integration in Japan’s security policy”.
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・監訳者解説「CIAの劇的変貌に迫る調査報道」『CIAの秘密戦争』（早川書房、2017.8） ・「データに付加価値を与える——インテリジェンスとは何か」（『シノドス』2017.8.29 https://synodos.jp/info/20293） ・書評：田嶋信雄著『日本陸軍の対ソ謀略——日独防共協定とユーラシア政策』（明治大学国際武器移転史研究所『国際武器移転史』第5号 2018年1月） ・「日米同盟の離反に注意せよ：「吉田ドクトリン」に代わる日本の大戦略を緊急提言」リチャード・サミュエルズ・小谷賢 Voice 2018年2月号